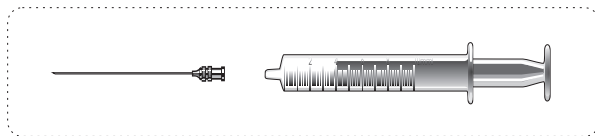


手術

外来

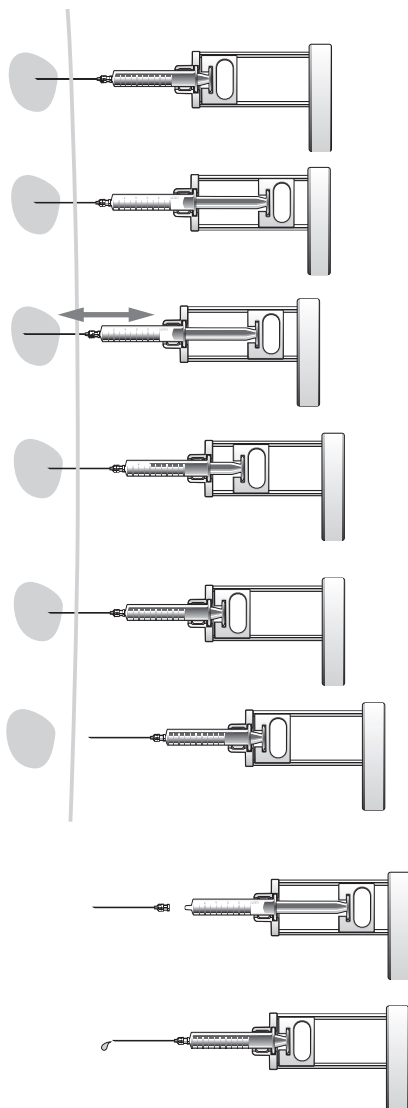
●千葉大式吸引ピストル QN942

※ ディスポ注射器、ディスポ注射針は
 使用の度に別途ご用意ください。



20ccのテルモ製あるいはニプロ製ディスポ注射器
 トップ製の物も使用できる場合があります。

吸引ピストル本体



●千葉大学 一外科式 穿刺細胞診用 吸引ピストル

●穿刺吸引細胞診の応用範囲は拡大され、体中の臓器組織が対象となっており、悪性腫瘍の静断に欠かせない検査法です。

●本検査法は本来注射器と注射針とがあれば可能ですが、細胞採取の正確さ、簡便さ、迅速性からディスポーザブル注射器に合わせた本吸引ピストルが使用されています。

●注射針は22G (外径0.7mm)、21G 1/2 (外径0.8mm) を用いれば安全かつ十分です。

●検査対象：リンパ節、甲状腺、乳腺、肺、食道、胃、肝、膵、腎、前立腺、体表腫瘍、その他

(考案者並に使用法説明：千葉大学第一外科 救急部長 庵原昭一 博士)

—使用法—

1. 注射針 (22Gまたは21G1/2) をつけたディスポーザブル注射器を吸引ピストルに装着する。その吸引ピストルを右手にもち、左手で触れうる腫瘍があれば把持しながら目的物を穿刺。
2. 針先が腫瘍内に十分達したら、ひきがねにより内筒を引く。
3. 内筒を引いたまま針先を腫瘍内で2~3回往復する (この間数秒間)。
4. ひきがねを離し、内筒が戻って静止するまで待つ。
5. 全体を抜去。
6. 針と注射筒との接合を離し、引き金を引き注射筒内に空気を入れる。針を再び注射筒に連結し、空気を押し出しながら、針内の吸引組織をガラスの上に押し出す。
7. (1) 液状検体であれば血液塗抹標本と同様に。
 (2) 半固形検体であれば、血球計算用カバーガラスで軽く押しつぶすようにして塗抹標本をつくる。
 2枚のオブジェクトグラスで相接して塗抹標本をつくってもよい。

(注1) 本法による吸引採取細胞をmiliporefilter法と併用も可能である。
 (注2) 穿刺ごとにディスポ注射器を交換し、採取細胞の混濁を防ぐこと。

■滅菌消毒方法について

- ・外来、検査室など通常の使用条件下ではアルコール綿による全体拭拭。
- ・無菌環境下での使用の場合は、オートクレーブ、プラズマ滅菌、EOGガス滅菌を推奨します。

●この器具自体は医療機器ではありませんので、必要に応じて病院内の倫理委員会等においてご協議の上お使い下さい。

また併用する医療機器の使用目的や用途を超える場合には十分ご理解の上、使用者責任において使用して下さい。

(この商品は受注生産品で、納品までかなりの期間を要します。受注後、不測の事情で製造が出来なくなる可能性もございますので、予めご了承の程お願い申し上げます。もしそのような事態になった場合は受注をキャンセルさせていただきます。またそれに伴う一切の補償等は出来ません)